

神 殿 講 話

結 城 和 広 役 員



神 殿 講 話 要 旨

クをつけるという行為、これは自分が感染するのが怖いから着けるのか、人に感染させたくないから着けるのか、同じ行為でも、大きく意味が分かれます。感染させたくないというのは、人の事を思っていて、これは今の自分に必要

七ツ なんでもなんぎハ さゝぬぞへ たすけいちじよ のこのところ とあります。「やさしきこゝろ」というのは人を思いやる心で、これが人をたすける心につながります。おたすけの根本であります。

ころがあります。このおさしづではそれじゃだめだと言われています。やさしきを教会とすると、教会には優しい言葉が第一だと、教会に来て下さる、まだ信仰の浅い人たちに優しい言葉をかけてくれ、年寄りも若いも男も女も関係なく、愛想良く優しい言葉をかける。愛想が無くては、道とは言わん。とまで言われています。また、今私が頂いている身上からも、このおさしづをしつかりと心におさめなければと思うところがあります。私はもう何年も前から少し埃つぼいところに行くと、息がゼエゼエしてきて、少し喘息気味なくらいに思っていたのですが、今年の3月に、周りから言われてとうとう病院に行きましたら、立派な喘息ですと言われました。かしこねのみことで息吹き分けてるので、冷たい言葉ではなく温かい言葉で、優しい言葉掛けを意識して、日々を通らせて頂かなければと、又、コロナも呼吸器系の身上ですので、今のコロナ禍のおたすけには、「やさし」がキーワードになるのかなと思わせて頂きました。

た。 本年の活動方針 「おやさまのひながたとはよふぼくを育て増やすこと 初席者104名 中席者280名」 であります。11月末までの人の御守護の成果は、初席者13名・中席者17名・ようぼく5名・三日講習会1名・修養科修了者1名・教人2名です。 例年でしたらまだまだ頑張らなければならぬ数字ですが、今年はこのコロナ禍の中、これだけの方々がおちばへ帰られた事は本当に素晴らしい事だと思わせて頂きます。この人の御守護の中の修養科修了者ですが、今年1名、昨年も1名でした。何か、最近修養科生がいけないのが当たり前のようになってしまう。今年、コロナのために5月期と6月期の修養科の受け入れがありませんでした。7月期から募集を再開したとき、内心、このコロナ禍で入る方がいるのかなと思つて居ましたら、188名の方が志願されたそうです。

いたわる気持ちの表れで、その気持ちが深まっていくと人をたすけたいという気持ちにつながっていく。逆に、感染するのが怖い、自分を守りたい、という気持ちが強くなると、人の行動が気になつていくと、あの人があんなことをしているというような指摘や批判につながると言われています。それがエスカレートして、自衛警察やマスク警察というような人まで出てきてしまうのではないのでしょうか。人に対する優しさや思いやり、そういう心を深めていくことが、今、最も大切だと仰つておられます。

皆来る者優しい言葉掛けてくれ。道には言葉掛けてくれば、第一々々やしきには優しい言葉第一。何も知らん者、道はこんなものかと思てはならん。年取れたる又若き者も言葉第一。愛想という事、又一つやしきに愛想無うては、道とは言わん。男という女という男女に限り無い。言葉は道の肥、言葉たんのうは道の肥。

中略

先日、今、一期講師をつとめられている徳道の齋藤先生に聞きましたら、今はこのコ

今年を振り返ってみますと、あんなことがあった、こんなことがあったと、考える必要もないくらいコロナで全てが中止、自粛になった一年でした。確か、今年1月、おちば帰りの前に、コロナのニュースを聞き、日本に入ってきたら怖いなあと思ひながらおちば帰りをして、帰りの飛行機で隣の席が中国人で、参ったなあと思つた記憶があります。あの頃はまさかここまで状況になるとは、思いもしませんでした。

内統領宮森先生はみちのこのインタビュで、このコロナの大節におけるキーワードは「やさし」だと思ふ、と仰つておられます。今、外出するときはマスクが手放せなくなりりましたが、このマ

六ツ むごいこゝろをうち わすれ やさしきこゝろになりてこい

自分です自覚しているのですが、言葉足らずで不愛想なと

上から言葉掛けて優しいは道。事見習え。

自分です自覚しているのですが、言葉足らずで不愛想なと

先日、今、一期講師をつとめられている徳道の齋藤先生に聞きましたら、今はこのコ

先日、今、一期講師をつとめられている徳道の齋藤先生に聞きましたら、今はこのコ